

令和8年度 臨床研修プログラム (募集要項)



国民健康保険 小松市民病院

当院のアピールポイント

おすすめ① 手頃な規模で風通しがいい！

巨大な医局ではなく全科に医師が常勤し、各科の横のつながりが密接で、気軽に相談やディスカッションができる雰囲気がある。

地域から信頼された病院で、指導医がすぐ側に寄り添うことで実践的な研修を行うことができる。

おすすめ② さまざまな症例に出会うことができる！

南加賀24万人の医療圏における中核病院であり、重症例から希少疾患まで当院に集約されるため、広く偏りのない臨床経験ができる。

南加賀の人柄に触れ、より良い医師・患者家族交流ができる。

おすすめ③ 救急診療もお任せください！

救急患者に対応する能力を身につけるために、年間3,500台超の救急搬送数はおそらく十分な数ではないか。1日10台の救急搬送に対応している間に、自然と頭と体が動くようになるものである。

おすすめ④ 専門分野の高度医療に接することができる！

地域の中核病院として各分野のエキスパートが揃っており、それぞれの高度医療を共に経験することができる。

将来希望する科の先輩医師の働く姿を間近で見ることで、それらをロールモデルとした自らの将来像をイメージできる。

おすすめ⑤ 地域医療・高齢者医療も楽しい！

高齢者に対するチーム一丸となった医療や退院に向けた支援活動、地域医療ネットワークについて学ぶことができる。

南加賀保健所研修で、さまざまな健康維持活動、衛生管理、保健・福祉相談サポート等を学ぶことができる。

小松ソフィア病院、能登地区の4病院（珠洲・輪島・宇出津・穴水）、公立つるぎ病院と連携し地域医療について学ぶことができる。

おすすめ⑥ カンファレンスとメンターなど研修環境が充実！

重要症例や救急症例のカンファレンスを通じて、知識や経験を共有し深めるとともに、プレゼンテーション技術を学ぶことができる。

かゆい所に手の届く月2回のメンターの会で研修スケジュールなどを調整できる。

臨床研修後の進路について、詳しく気軽に相談できる。

小松市民病院の基本理念

共に歩む

患者さんの思いに共感し、多職種チームで症状・情報を共有し、かかりつけ医と共同で医療にあたり、地域の人々と共生し、共に歩みます。

小松市民病院の基本方針

- 一、 患者さんの人権と権利、そして思いを尊重します
- 一、 安全で安心な急性期医療・がん医療・予防医療を推進します
- 一、 救急医療の充実に努めます
- 一、 地域の医療・介護・保健機関とつながる医療を行います
- 一、 職員の働きがいのある職場をめざします

I. 当院の概要

診療総括事項

◎許可病床数

340床

(一般300床、結核10床、
精神26床、感染症4床)



◎研修診療科目

一般内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、一般外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、緩和ケア科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、病理診断科、麻酔科

◎医師数

常勤医師 60人（研修医を除く） R6年4月現在

◎地域医療支援病院

◎病院指定

保険医療機関、救急告示病院、災害拠点病院、エイズ拠点病院、基幹型臨床研修指定病院、労災保険指定医療機関、生活保護法指定医療機関、結核予防法指定医療機関、第二種感染症指定医療機関、更生医療担当医療機関、地域がん診療連携拠点病院、石川県肝疾患専門医療施設、(財)日本医療機能評価機構「複合病院種別B認定病院」、更生医療担当医療機関（耳鼻咽喉科、整形外科、形成外科、心臓脈管外科、腎臓、免疫に関する医療）、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関

◎学会認定医制度による研修施設認定

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本耳鼻咽喉科学会耳鼻咽喉科専門医研修施設、日本泌尿器科学会専門医教育施設、日本外科学会専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本皮膚科学会認定専門医研修施設、日本整形外科科学会専門医研修施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本内科学会認定医教育関連病院、日本形成外科学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー・インプラント実施施設、日本麻酔学会麻酔科認定病院、日本脳神経外科学会専門医訓練施設、日本胸部外科学会関連施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設、日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設、日本動脈硬化学会認定専門医教育施設、日本呼吸器学会関連施設、日本呼吸器外科学会専門医制度施設、日本消化器病学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設、日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本脳卒中学会研修教育病院、日本乳癌学会関連施設、日本認知症学会専門医教育施設

◎その他施設認定

マンモグラフィ検診施設、マンモグラフィによる乳がん検診での精密検査機関、マルチスライスCTによる肺がん検診の精密検査機関、MRI 対応植込み型デバイス患者のMRI 検査の施設、日本診療放射線技師会臨床実習指導施設、日本臨床衛生検査技師会精度保証認証施設



Ⅱ.研修システム

小松市民病院は、新しい医療に適應する医師養成のために、各人の個性にあわせた研修ができるように配慮します。

研修医は、この研修システムにおいて、様々な医療現場を経験することで、定められた研修理念を遵守し、日常診療に対応する基本的診療能力を身に付け、地域医療に貢献できる医師としての人格を身につけます。

【研修理念】

臨床研修は、医師が、医師として人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷または疾病に適切に対応できるよう、基本的な診療能力を身に付けるものとする。

当院の基本理念に準じ研修を行う。

「わたしたちは、地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し、共に歩みます。」

研修における業務全般については、当院の定める医師業務マニュアルに従い忠実に遂行するものとする。

Ⅲ. 研修の特色

【豊富な症例】

南加賀医療圏の中心として、救急患者、外来患者の多くの症例を経験できます。救急患者の増加に伴い、南館にプライマリ・ケアを目的とした、南加賀急病センターが併設されています。



南加賀急病センター



南加賀救急医療センター

初期救急は併設型の協力施設である南加賀急病センター、2～3次救急は当院の南加賀救急医療センターで、高次病院では経験できないような症例を多数経験でき、初期研修の場としては、最適な状況にあります。

【実践参加型の研修】

プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけることを指導の基本理念としています。

また、地域の第一線病院としての性格上、すぐ診療に役立つ手技を指導医と共に、診療に携わりながら習得していきます。



【マンツーマンによる指導】

中規模病院の良さとして、ほとんどマンツーマンで指導を行います。

まず、何をしたらよいのか戸惑うことはありません。



Ⅳ.プログラムの概要

必修科目のプログラム内容

【内 科】

消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科、血液内科をローテーションします。

【救 急】

南館に併設されている南加賀急病センターと当院の南加賀救急センターをあわせて、初期から3次まで豊富な症例が経験することができます。

午前、午後の救急外来に詰め、指導医のもと1次から2次までの内科、小児科、外科系の救急対応にあたります。

週に1度のカンファレンスで救急外来の追跡、見直しの検討会を行い、ICU総回診に参加します。



救急研修の内、4週間を麻酔科で研修をします。

【地域医療】

小松ソフィア病院、能登地区の4病院（珠洲・輪島・宇出津・穴水）、公立つるぎ病院と連携し地域医療を経験します。
(基幹型のみ)

【メンター部会】

1. 研修医への生活面を含めた援助をします。
2. 隔週金曜日 17:00 から研修医とのミーティングを開催します。
3. 研修医の精神面・心理面への配慮及びアドバイス研修の進捗状況を検討します。
4. 研修医と病院スタッフ（上級医・指導医・コメディカル）との良好な人間関係を維持します。

研修医と接触し、研修が順調にいくよう援助します。

研修医について報告事項があれば臨床研修委員会に連絡します。



【研修医カンファレンスセミナーへの参加】

CPCを含む研修医カンファレンスセミナーに全ての研修医は、参加します。

研修中にカンファレンスでの1回以上の発表を義務付け、評価の対象とします。

ICU研修後に、ICU発表も経験します。

【病院管理者】

病院管理者である病院長より、研修修了者に『臨床研修修了書』を授与します。

【その他】



本院と関連協力施設において作成した初期臨床研修プログラムに基づき、2年間の研修を行います。



行動目標、経験目標については、「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」の目標を準用します。



研修期間中のアルバイトは禁止とします。

V. 研修計画



研修科目

必修科目：オリエンテーションも含め内科、救急、外科、小児科、産婦人科、精神科
地域医療

選択科目：研修医の希望する診療科

※産婦人科については、希望により当院と院外の協力施設とで研修も可能



研修期間

1年次 必修科目：内科 24 週、救急 12 週、外科 4 週、小児科 4 週、産婦人科 4 週、

2年次 必修科目：精神科 4 週、地域医療 4 週、選択科目 48 週



研修時間割・・・小松市民病院臨床研修プログラム

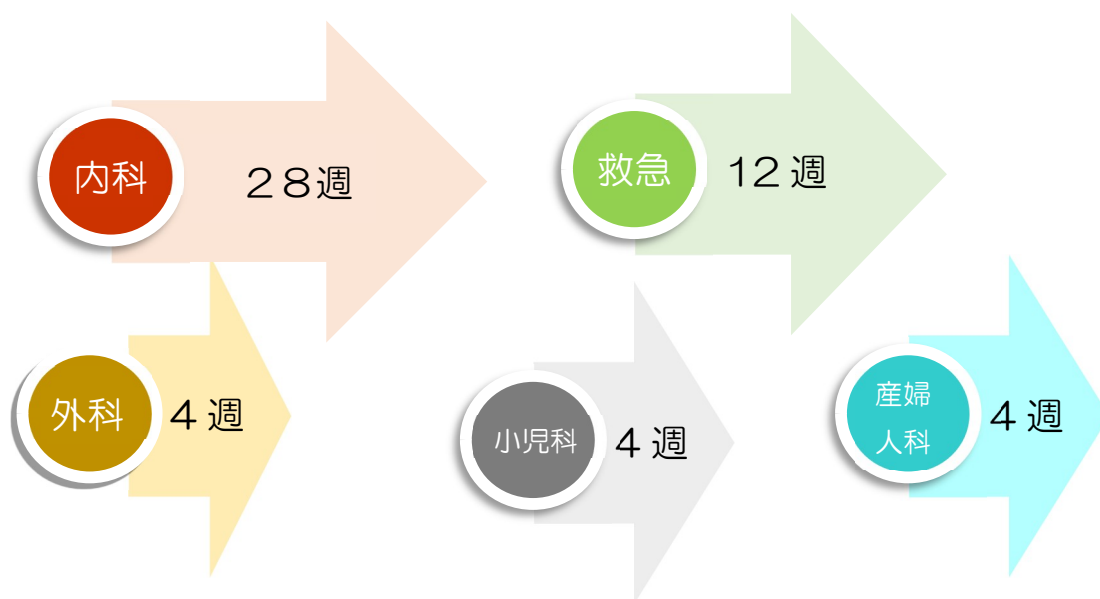
1年次	内科 28 週		救 急 12 週	外科 4 週	小児科 4 週	産婦人科 4 週
2年次	精神科 4 週	地域医療 4 週	選択科 44 週			

※ 研修医の人数によって、研修診療科の順番変更可能

※ 選択科の期間

内科、外科、小児科、精神科、麻酔科、産婦人科、放射線科、皮膚科、形成外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、脳神経外科、救急、病理診断科の中で、2～4 週単位で選択

1 年次



内科 28 週

一般内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、血液内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科の中で、4 週／科単位選択し、28 週でローテーションします。

救急 12 週

救急、プライマリ・ケアの研修は2年間を通じて行う。一定期間の研修に日当直を加えて12 週に相当する場合、12 週の研修とみなすことができます。

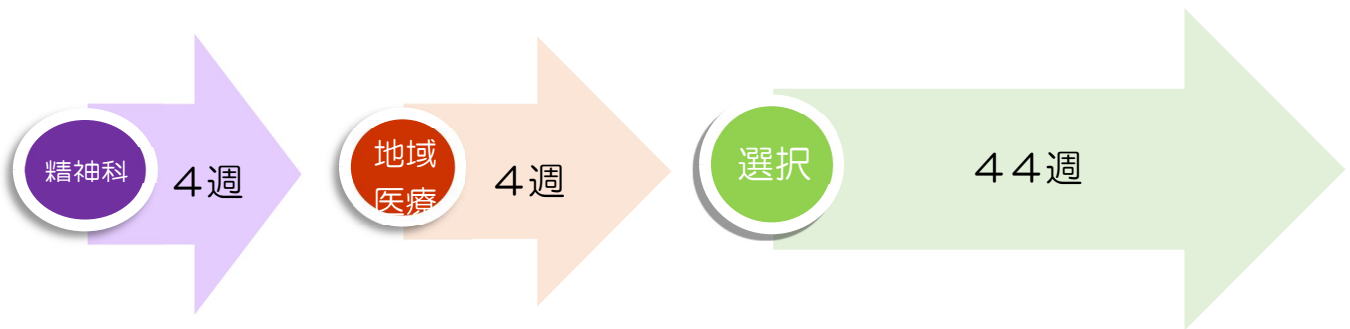
当院併設の南加賀急病センターとあわせ当院の午前、午後の救急外来に詰め当院でのローテーションによる救急を行います。主に内科、小児科、外科系にローテーションする場合に行います。

指導医のもと1 次から2 次までの内科、小児科、外科系の救急にあたります。また、日直、当直も経験します。週に1 度の救急外来の追跡、見直しの検討会、ICU 総回診にも参加します。

外科・小児科・産婦人科 4 週/科目（12 週）

外科、小児科、産婦人科を12 週でローテーションします。

（1 科目、原則として4 週）



精神科 4週

協力病院である金沢大学附属病院にて精神科研修を行います。

地域医療 4週

能登地区等の医療機関、臨床研修施設での地域医療を経験します。

選択科 44週

標榜科目

内科、精神科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線科、救急、麻酔科、病理診断科の中からを選択します。
(1科目4週以上を原則とするが、変更可能)

選択科目

ローテーションの科目順は、同一科に複数の研修医が同時に重ならないようにします。
希望により入局前に金沢大学病院にて2ヶ月程度研修が可能です。

臨床研修を行う分野ごとの臨床研修病院（協力施設）

地域医療	公立つるぎ病院	(一般外来 4週 在宅診療 1回)
	珠洲総合病院	(一般外来 1.6週 在宅診療 1回)
	市立輪島病院	(一般外来 1.2週 在宅診療 1回)
	公立宇出津総合病院	(在宅診療 1回)
	公立穴水総合病院	(一般外来 3.6週 在宅診療 1回)
	小松ソフィア病院	
産婦人科	石川県赤十字血液センター	
	恵愛みらいクリニック	
精神科	金沢大学附属病院	
	加賀こころの病院	
救急	南加賀急病センター	
	小松市消防本部	
保健医療行政	南加賀保健福祉センター	

VI. 研修内容

全科共通

1. それぞれの病棟を担当し、医療スタッフとして診療に当たります。
2. 指導医の外来に参加し、診療補助・検査補助を行います。
3. それぞれの科で行われるカンファレンスに参加します。
4. 指導医とともに宿日直業務を行い、救急医療の補助を行います。

一般内科

当院において 外来診療、各種検査業務、病棟業務の研修を通して、一般内科医としての能力の基礎を習得します。

医師となる基本的態度、診療の原理・原則を理解し、内科の診察方法、検査手技の習得が達成できるよう研修を行います。内科全般を総合的に診療できるジェネラリストを養成するプログラムであり、専門医プログラムと並列して行われます。また、指導医のもと、初期救命処置習得のため日中の救急医療センターや夜間の当直業務を行います。

研修は循環器、消化器、呼吸器、代謝内分泌、腎・血液浄化、血液の各専門に分かれ各指導医のもとで入院患者を担当します。

指導医のもと学会発表、症例検討会、CPCに参加します。

症例報告や臨床研究の結果の発表を修得します。



呼吸器内科

A：症例および診療科概要

1. 外来診療では、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患などの疾患の診断と治療、また咳喘息、アトピー咳嗽といった慢性の咳の診断と治療を中心に行っています。急性肺炎や肺結核といった肺感染症では原則は入院加療ですが、軽症の場合は外来での治療も行っています。

肺癌では、切除可能な場合、当院呼吸器外科医師（常勤）が手術を行っています。切除不可能な場合、全身化学療法や免疫療法、また、患者のQOLを重視し、緩和ケアも行っています。

2. 慢性咳や喘息などの呼吸器疾患の診断のため、精密肺機能検査等を行っています。肺癌やびまん性肺疾患の診断などのための気管支ファイバー検査は、年間 100 例行っており、稀な肺疾患では、気管支肺胞洗浄液の解析を金沢大学呼吸器内科に依頼し診断に役立てています。



B：目 標

1. 呼吸器内科入院患者の主治医となり、病棟業務に参加し、呼吸器疾患の診察に従事するための基本的な考え方や技能を習得します。
2. 呼吸器内科外来業務を担当し、診療や外来検査などの実施および補助を行い、基本的な考え方や技能を習得します。
3. 気管支鏡検査、呼吸機能検査等の基本的手技を習得します。
4. 胸腔穿刺、胸膜生検、胸腔ドレナージなどの技術を習得します。
5. 患者の呼吸器疾患に対する理解を深めるための当院主催の患者会へ参加し、運営に協力することにより患者教育について学びます。
6. 医師会主催の肺癌精密検査検討委員会に参加し、胸X線、CTなど読影能力を習得します。
7. 稀な呼吸器疾患に遭遇した際には学会等へ症例を報告します。（発表、論文作成）

C：研修内容

一般病院で遭遇する呼吸器疾患の診療の基本的考え方や技能を修得します。

特に、呼吸器悪性腫瘍、肺結核、肺炎、気管支喘息などの診療に対する技能を習得します。

また、気管支鏡検査、呼吸機能検査の補助及び習得を行います。

循環器内科

A：症例および診療科概要

《年間症例数》

心臓カテーテル検査・治療件数	450件
冠血流予備量比（FFR）測定	50件
冠動脈インターベンション	150件
ペースメーカー植込（新規、交換）	50件
カテーテルによる血管形成術	50件



一般病院で一番多く遭遇する心不全、冠動脈疾患、不整脈など症例数が多く基本的な循環器診療の知識及び技術の習得ができます。

B：目 標

病棟並びに外来において臨床研修を行い、循環器の診療に従事するための診断、治療が行なえる知識、技能を身につけ、全人的医療を実践します。特に循環器救急の初期治療を行うことができるようになります。

循環器疾患の入院患者、救急受診患者の診察を通して、問診、身体所見、治療の選択法を正確に選べるようになります。心エコー、トレッドミル、負荷心筋シンチ、心臓カテーテル検査、ペースメーカー挿入などの意義、適応を判断でき、その結果を解釈することが出来るようになります。

C：研修内容

1. 循環器内科の病棟を担当しその医療スタッフとして入院患者の診療にあたります。

2. 外来を担当、また指導医とともに当直を行い診療、検査、救急医療を行います。
3. 心エコー、トレッドミル、負荷心筋シンチを行います。
4. 心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術、カテーテルによる心筋焼灼術、ペースメーカー植込に介助医として参加しマンツーマンの指導を受けます。

消化器内科

A：症例および診療科概要

医師4名にて多数の上部消化管、下部消化管の検査・治療を行っています。特に内視鏡検査・治療を積極的に行っています。また、肝胆膵領域の症例も多く、関連する各科の医師と共に各種検査、治療を行っています。本院は南加賀地域の中核病院として広く開業医の先生と連携し多数の紹介患者を受け入れ、信頼にえています。

《年間症例数》 (2022年度)

上部内視鏡	3,053例
下部内視鏡	988例
ERCP	205例
気管支内視鏡	118例
ESD（早期消化管悪性腫瘍）	60例
EMR・大腸ポリペクトミー	207例
EUS-FNA	37例



B：目 標

日本消化器学会認定専門医ならびに内視鏡学会認定専門医習得を目指します。消化器病、肝臓病学に対する造詣をより深めています。

C：研修内容

研修項目：消化管、肝胆膵の各領域の疾患に対する検査、治療手技全般

研修方法：当院消化器内科医4名がマンツーマンで指導します。また、他科の医師の協力も求めています。消化器疾患における診療の基本に加え、各病態の理解から治療法の基本を習得します。内視鏡、消化器造影、腹部エコー等の一般検査の補助及び実施、腫瘍生検、がん局所治療、肝生検等の特殊検査の補助を行います。研修をより深化させ、研修の重要性を理解するために金沢大学消化器内科と密接に連携します。

血液内科

A：症例および診療科概要

南加賀地区で唯一血液内科常勤医師2名体制にて血液疾患診療を行っています。主に造血器悪性腫瘍（白血病・骨髄異形成症候群・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫など）に対する化学療法を行っています。その他、再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や、特発性血小板減少性紫斑病に対するステロイド療法なども行っています。また 2023 年 2 月に無菌治療ユニットが完成

し、より多くの高度な血液疾患診療を受け入れています。

《入院患者のべ人数》（2023 年 1～12 月）

白血病	46例
悪性リンパ腫	230例
多発性骨髄腫	26例
骨髄異形成症候群	12例
再生不良性貧血	7例
出血性疾患	7例
その他	2例

《年間症例数》（2023年1～12月）

入院化学療法	722件
外来化学療法	449件
骨髄検査	137件



B：目 標

1. 血液疾患の診断方法と治療方針の決め方について習得します。
2. 血液疾患の治療期間中における基本的な考え方管理の仕方について習得します。
3. 血液内科チームの一員としてチーム医療に参加します。
4. 骨髄検査や中心静脈カテーテル挿入などの技能を習得します。

C：研修内容

1. 当院血液内科医2名がマンツーマンで指導します。
2. 骨髄検査所見およびリンパ節生検所見の解釈の仕方について習得します。
3. 血液疾患入院患者の担当医となり、病棟業務に参加し、血液疾患診療（化学療法や免疫抑制療法など）における基本的な考え方や管理の仕方について習得します。
4. 週 1 回の多職種カンファレンスに参加し、担当患者についてプレゼンを行います。
5. 骨髄検査や中心静脈カテーテル挿入などの処置に積極的に参加します。

内分泌・代謝内科

A：症例および診療科概要

1. 糖尿病の年間症例は新患 400 例、入院 400 例、外来 1,500 名程度
2. II型が主であるが I 型、特殊型（遺伝性、二次的）も多い。インスリン療法 35%、インスリンポンプ治療を行っています。
3. 合併症例が多く、いろいろなレベルの症例に対し、院内の眼科、腎臓内科、循環器内科と連携し治療にあたります。
4. 小児科、産婦人科を有するため、小児発症 1 型、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠例あり。
5. 内分泌疾患は甲状腺疾患が主で新患症例は年間 50 例、その他下垂体、副腎、副甲状腺が数例あります。
6. コメディカルとのチーム医療、地域の非糖尿病専門医との連携を軸とし、地域に向けての指導を行います。



糖尿病教室

B：目 標

1. 糖尿病の一般的な診断と治療方法の習得
2. 各症例の病態を理解し治療目標と治療方法の選択に習得
3. 糖尿病の急性合併症（ケトアシドーシス、非ケトン性高浸透圧性昏睡、低血糖）対処の習得
4. 合併症例に対し、適切な治療内容の決定と変更の習得
5. 患者の教育指導、療養指導士の育成、地域の医師との連携の経験
6. 甲状腺疾患の診断と治療の習得

C：研修内容

糖尿病研修指導医とペアで診療にあたる。内分泌・代謝内科の一般診療に必要な基本的技能を習得する。地域の中核病院として症例は豊富で、知識面だけでなく実践面での初期研修を行います。

腎臓内科・血液浄化療法

A：症例および診療科概要

腎疾患の急性期治療を病診連携の下で行っています。

腎生検は年間 30 例程度行っており、腎炎やネフローゼの治療を行っています。

緊急血液透析や集中治療室での持続的血液濾過透析、血漿交換等も行っています。透析導入も年間 20 例程度行っています。

近医の維持血液透析患者が、当院へ入院した際の血液透析管理も行っています。

慢性腎臓病の教育・指導も、外来及び入院にて行っています。CKD サポート外来、CKD 教育入院、腎代替療法選択説明を、透析療法室、外来や病棟と共同して行っています。

県内の腹膜透析患者の約 30%が当院の患者であり、腹膜透析患者が他施設と比較して多ことが特徴です。

また、関節リウマチ、SLE や血管炎等の膠原病の診療を行っています。



B：目 標

1. 腎疾患、リウマチ及び膠原病の基本を理解します。
2. 血液透析及び腹膜透析の基本と患者管理を理解します。
3. 緊急透析、持続的血液濾過透析、各種血漿交換療法の適応や方法を理解します。
4. ステロイドや免疫抑制剤の使用について学習します。

C：研修内容

内科外来・関連病棟・透析療法室での実地研修。腎炎・腎障害の診断治療、腎不全の保存期治療、透析治療(血液透析、腹膜透析)と一連の腎疾患の診断治療の基礎を習得します。また、持続的血液濾過透析や血漿吸着療法・血液交換などの特殊治療の基本を習得します。リウマチや膠原病患者の治療診断の基本を習得します。

週1回の透析療法室でのカンファレンス、月1回の透析連絡会（透析療法室、関連病棟、地域医療支援室、関連病院、関連介護施設）へ参加します。透析のアクセスの作製へ参加します。

外 科

A：症例および診療科概要

外科には、一般外科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、血管外科領域があります。当科の年間手術症例は900例、全身麻酔手術は600例です。

《主な年間症例数》

胃がん	50例
大腸がん	80例
肺がん	50例
乳がん	40例
肝胆膵がん	20例
甲状腺	20例
胆石	90例
虫垂炎	80例
ヘルニア	100例
血管	20例



近年は内視鏡手術が増加しており、心臓外科以外の手術は全て行っています。

人口20万人地域の中核病院、がん診療連携拠点病院として、全てのがん手術、外傷処置及び緊急手術を行っています。

ロボット手術（ダヴィンチ）も導入しております。

B：目 標

初期臨床研修においては、指導医のもと担当患者の診察・検査・処置・治療にあたり、手術は第一助手を務めるなど、外科領域における基礎的知識、診断能力・技能を自分が直接診療することにより習得します。

外科診療を行う上で、医の倫理に基づいた適切な態度と習慣を身につけ、指導医とともに on the job training に参加することにより、協調による外科グループ診療を行うことができることを目標とします。

麻酔科

A：症例および診療科概要

1. 当院中央手術室における年間総手術件数は2,000件、そのうち麻酔科管理症例は1,200件です。麻酔科医は、全員が麻酔科専門医です。
2. 院内の事情から、麻酔科管理症例はほとんどが全身麻酔です。
3. 手術症例は、外科（消化器・呼吸器・乳腺・内分泌）、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、形成外科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、眼科と、外科系すべての診療科に及びます。

B：目 標

1. 麻酔器の構造について理解します。
2. 全身管理に必要な生理学・薬理学を理解します。
3. 術前診察の意義とリスク評価を理解します。
4. 全身麻酔の一連の経過を理解します。
5. 脊髄くも膜下麻酔・硬膜外麻酔・末梢神経ブロックについて理解します。
6. 末梢静脈確保、バックマスク換気、気管挿管などの技術を習得します。
7. 麻酔中のモニターについて理解します。
8. 術中・術後の全身管理について理解します。
9. 急変の発見とそのときの対応を習得します。
10. 術後疼痛管理について理解します。
11. 緊急手術の麻酔・全身管理について理解します。



C：研修内容

1. 麻酔科医師によるマンツーマンでの指導を行います。
2. 研修終了時に、末梢静脈確保、気管挿管が一人で行えることを目標とします。
3. 全身麻酔の経過を十分に理解し、循環管理・呼吸管理についての知識・技能を習得します。
4. その他、動脈穿刺・観血的動脈圧測定、中心静脈路確保などの手技を見学、習熟度に応じて実施します。

D：施設認定

1. 当院は日本麻酔科学会の認定病院です。
2. 麻酔科専門プログラムを行う金沢大学麻酔科の連携施設となっています。

救急医療

A：概 要

救急医療センターは、一つの病院と言えます。全ての分野における救急症例を診察し、診断、治療の流れを理解するとともに、専門的治療への橋渡しをする上での幅広い知識と、柔軟な考え方、そして患者とのコミュニケーション能力を必要とします。将来どの科へ進むにしても役立ちます。

また、救急患者発生時からの一連の流れを知るために、小松市消防本部と連携して救急車同乗体験研修（救急隊連携）を行います。

高次救急は、院内の南加賀救急医療センターにて、初期救急は当院併設型、完結型の南加賀急病センターにて多数の症例を経験できます。



◎南加賀救急医療センター

年間受入れ数 10,000 名

(うち救急搬送 3,100 名)

主な年間症例数	心肺停止	110 例
	脳疾患	230 例
	AM I	60 例
	多発性外傷	10 例



◎南加賀急病センター

年間受入れ数 13,500 名/年 (内科 5,000 名, 小児科 8,500 名)



小児科

A：症例および診療科概要

当院は南加賀地区の小児医療基幹病院であり、唯一小児の入院治療が可能な施設です。

外来患者数は年間 12,000 人、入院患者数は年間 600 人です。

また、当院は小児の二次救急施設であり、病院敷地内の一次救急施設である南加賀急病センターからの紹介患者にも対応しています。

小児救急患者は年間 1,000 人、うち南加賀急病センターからの紹介は年間 200 人にのびります。

外来は一般外来、健診、予防接種をはじめ、専門外来として①神経筋疾患、②小児神経発達症／心身症、③循環器疾患、④内分泌代謝疾患、⑤腎リウマチ疾患があり、近隣の医療機関から多様な愁訴を有する患者紹介は、年間 400 人にのびります。

B：目 標

1. 小児患者の診療を怖がらず、まずは「子どもを診てみよう」と踏み出せるために最低限必要な問診・診察技術の習得、見逃してはいけない疾患の熟知
2. 小児科基本手技のうち、採血、鼻腔咽頭検体採取、薬剤注射／予防接種の習得
3. 医学雑誌を引用文献に自身で経験した症例の診断治療内容を吟味し、要約レポートを作成

C：研修内容

1. 小児科入院患者の担当医の1人として回診、検査、処置を指導医と共に行います。
研修医として経験すべき小児疾患を中心に、疾患の概念・病態・標準治療内容・治療経過を理解し、見逃してはいけない身体所見の見方や治療指示の出し方、患者家族への説明の仕方を習得します。
2. 検査手技として、①採血、②鼻腔咽頭検体採取、③導尿、④プリックテスト、⑤簡易エコー検査、⑥髄液採取の習得を目指します。
3. 治療手技として、①点滴静脈路確保、②薬剤の皮下・筋肉・静脈内注射、③ワクチン接種、④検査前鎮静の習得を目指します。
4. 小児救急初期対応として、①バイタル評価、②マスク吸入・換気、③小児けいれん患者対応などの習得を目指します。希望者には南加賀急病センターの診療見学も行います。
5. 地域医療として、①乳幼児健診、②予防接種、③発達相談を見学して理解を深めます。
6. 有力医学雑誌の小児科領域記事を題材に抄読会を行います。興味ある症例を経験した場合は、小児科学会地方会での演題発表や論文作成も目指します。



産婦人科

A：症例および診療科概要

1. 産科は、内科(糖尿病や高血圧、甲状腺疾患など)や精神科疾患などの合併妊娠を取り扱うことが多いです。
血糖や甲状腺機能のコントロールや内服薬など他科の先生と連携しながら妊娠管理を行っています。
2. 婦人科は子宮筋腫や卵巣腫瘍など良性疾患の手術や子宮体癌や子宮頸癌、卵巣癌など悪性疾患の手術、化学療法・放射線療法を行っています。最近では良性腫瘍の腹腔鏡手術の割合も増加してきています。
3. 産婦人科での研修のうち2週間は、研修協力病院の恵愛みらいクリニックで妊婦健診や正常分娩の見学・実習していただいています。



B：目 標

1. 手術では助手として参加し、縫合や結紮などの手技を研修医の先生に積極的にしていただいています。
2. 病棟業務では指導医とともに回診し、処方オーダーや指示を入れることなどで産科管理や、婦人科周術期管理に携わっていただきます。

C：研修内容

1. 産婦人科常勤医師3名による外来、病棟、手術室での指導
2. 恵愛みらいクリニックの指導医による指導



恵愛みらいクリニック

精神科

A：概 要

近年、臨床においては身体疾患のみならず、精神疾患に遭遇する機会が増えています。精神科を専門としない場合でも、精神医学の基礎的知識と技能を習得することは臨床医として重要と言えます。

当院では総合病院の特色を生かして、多くの患者の治療、他科との連携を通じて、精神科診療について学びます。

B：目 標

総合失調症、気分障害（躁うつ病、うつ病）不安障害（パニック障害、強迫性障害、全般性不安障害）、身体表現性障害、摂食障害（拒食症、過食症）、睡眠障害（不眠症、過眠症）、適応障害、薬物依存、アルコール症、思春期・青年期精神障害、老年期精神障害（認知症、せん妄）、てんかんなどの診断、治療スキルを習得します。

C：研修内容

精神保健指定医の指導で、外来、リエゾン、緩和ケア、デイケアでの診療に携わります。クルズスを通じて、診断、治療のポイントをディスカッションします。研修協力病院の金沢大学附属病院や加賀こころの病院の指導医による指導を行います。

脳神経外科 研修内容

脳神経外科の基本的な知識、技術、診療方法及び解剖学的基礎知識を習得します。

整形外科 研修内容

整形外科の基本的な脊椎、脊髄、運動器に対する診療に必要な知識、技能、態度を習得します。



皮膚科

研修内容

皮膚科疾患の基本的診断及び治療技術と、皮膚以外の臓器にも障害をきたす疾患を、皮診から診断し、他科との連携による適切な検査の手技を習得します。



形成外科

研修内容

外表奇形、火傷、外傷、熱傷後の変形及び瘢痕拘縮、皮膚腫瘍の診断及び形成外科的手術手技を習得します。



泌尿器科

研修内容

泌尿器科疾患の診断に必要な基本的考え方や技術を習得します。泌尿器科の役割を、他科との共同診療を経験することで認識することができます。



眼 科

研修内容

眼科領域の疾患や全身の疾患と関連する眼合併症の基本的診断及び治療技術を習得します。



耳鼻咽喉科

研修内容

耳鼻咽喉科領域の解剖学的特徴及び生理学的機能への理解を深め、基本的知識及び技能を習得します。また、耳鏡、鼻鏡、咽喉ファイバースコープなどの技術習得や聴力検査などの検査手技を学び、中耳炎、めまい、鼻出血、咽頭異物などの救急処置法を習得します。



放射線科

研修内容

放射線診断の基礎となる画像解剖を学び、疾患の画像上の特徴を覚え、効果的な診断技能を習得します。また、超音波検査、胃透視、注腸、経皮的生検の技能を習得します。



病理診断科

研修内容

病理診断を通じ、病理検体を扱う症例での質の高い診療が行え、病理診断に必要な能力の基礎を on the job training 形式を習得します。



HCU病棟（ハイケアユニット病棟）

A：概要

内科的、外科的重症症例の管理について、主治医から習得します。

救急患者の入室も多く、継続した治療に参加することもできます。

また、心肺蘇生法を実践により習得します。



緩和ケア

A：概要

当院の緩和ケア病棟（ユニット）において、身体的

- ・精神的緩和ケアを体験します。



感染制御部

A：概要

医師、看護師、検査技師、薬剤師の多職種で構成されています。患者や病院職員など全ての人を感染から守るために、ICT（感染対策チーム）と AST（抗菌薬適正使用支援チーム）が協働して、感染対策の活動を行っています。

ICT は感染対策の院内ラウンド、感染サーベイランス、院内外で研修会を行うなど、感染防止対策の実践、評価、教育を行っています。AST は薬剤耐性菌が問題となっている抗 MRSA 薬やカルバペネム薬など、抗菌薬が適正に使用されているか確認し助言を行っています。

B：活動内容

当院は、第二種感染症指定医療機関であり、2020 年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して、南加賀医療圏の重点医療機関として、疑い症例および確定症例の診療をいち早く行いました。発熱外来を設置し、発熱患者を隔離して診察を行い、院内感染の予防に努めました。さらに帰国者・接触者相談センターを設置し、疑い症例に対して PCR 検査を行いました。重症例を含む確定症例の患者が当院に入院し、呼吸器医師を中心に内科医師が主治医となり診療を行いました。

当院は結核予防法指定医療機関でもあり、結核に対する診療も行っています。最近は東南アジアの外国人患者が多く、異文化を学ぶ機会にもなっています。当院は石川県の感染拠点病院であり、多くの重要な感染症の症例を経験することができます。

VII. 評価方法・認定・研修終了後の進路

1. 評価方法

原則、評価システムの PG-EPOC で行う。

A. 研修医の評価

本臨床研修プログラムにおける研修医の評価は以下の原則に従う。目標到達の確認のための評価は、経験すること自体が求められている項目についてのレポート等の提出や単位の取得をもって評価する。

B. 担当科指導医の評価

年間指導医、担当科指導医の評価は、研修医による観察記録により行う。

C. 研修プログラムの評価

1. 研修プログラムにつき、臨床研修管理委員会で毎年評価を行う。
2. その際には、研修医からの評価も行う。

2. プログラム修了の認定

2年間の研修修了時に、各科担当指導責任者から提出された行動目標・経験目標の達成度を臨床研修管理委員会が検討して、初期臨床研修プログラムの修了を認定します。病院長は、卒後臨床研修管理委員会の答申を受けて、研修医に研修修了証書を授与します。

3. 研修終了後の進路

2年間の研修終了後の進路は本人の希望により、大学における専門領域へ進むことや、各専門病院での研修も可能です。他の後期臨床研修病院への紹介や推薦もしております。



IX. 応募手続

応募先 〒923-8560 石川県小松市向本折町木60番地
国民健康保険 小松市民病院 臨床研修担当
TEL 0761-22-7111 FAX 0761-21-7155
E-mail csomu@city.komatsu.lg.jp

応募資格 令和8年度実施の医師国家試験を受験する方または、医師免許を取得し、初期臨床研修を受けていない方で、マッチングプログラムに参加する方

応募書類 ① 臨床研修試験願書兼採用申請書（指定用紙有）※病院ホームページ内に Word ファイル有
② 履歴書（指定用紙有） ※病院ホームページ内に Word ファイル有
③ 自己推薦書（指定用紙有）※病院ホームページ内に Word ファイル有
④ 成績証明書

選考方法 面接

応募期間 7月1日～8月31日

試験日程 8月下旬～9月上旬で随時行いますので、希望日がありましたらご連絡ください。



様式はこちらから

X. その他、応募手続き及び見学の受入などの問合せ先

問い合わせ先 〒923-8560 石川県小松市向本折町木60番地

国民健康保険 小松市民病院
管理局総務課 臨床研修担当
TEL 0761-22-7111（内線2211）
FAX 0761-21-7155
E-mail csomu@city.komatsu.lg.jp

お気軽にいつでもお問合せください。